



2017. 1. 20

No.199

編集・発行人 樋口みな子

E-mail

minginga@agate.plala.or.jp

URL <http://www13.plala.or.jp/minginga/>

郵便振替「銀河通信」

02740-7-56535

(郵送6号分1,000円)

## 200号まであと一歩



1.9 長沼町の日の出

寒中お見舞い申し上げます。

読者からはご丁寧な年賀状をいただきありがとうございました。すいぶん遅れたご挨拶をお許してください。

昨年末は25年ぶりの大雪でした。たまたま札幌に出ている私は、帰りのJRが不通。そのうえに交通渋滞。折悪しく携帯の故障、家族と連絡が取れない焦りの中で、ようやく自宅にたどり着きました。

昨年の暴風雪による通行止めの地図を見ました。原発事故があったら後志地域の住民は札幌まで逃げられないのが歴然です。安全に避難できない泊原発の再稼働は認められません。

沖縄でオスプレイの墜落がありました。新聞やテレビは不時着と報じました。「天声人語」は記事に臆することなく痛烈に批判して心に残りました。市民の立場にたったの記事をたくさん書いて欲しいです。

(不時着か墜落か) 社会心理学に「正常性バイアス」という用語がある。事故や災害が起きたとき「きっと大したことじゃない」と自らに都合よく解釈し、事の深刻さを見誤ることをいう▼この現象は2001年秋の米同時多発テロでも起きた。旅客機に突っ込まれた高層ビルからすぐには避難しなかった人たちがいた。▼おととい沖縄の海岸近くに米軍のオスプレイが落ちた。米軍と日本政府はひたすら「不時着だ」と説明するが、都合のよい解釈の押しつけでは

ないか。砕け散った機体からは「墜落」との言葉しか浮かばない▼「パイロットは住宅、住民に被害を与えなかった。感謝されるべきだ」。事故後の在沖米軍トップの発言は信じがたい。空を見上げて不安におびえながら暮らす住民のことなど眼中にないようだ。▼本土の住民にとっても決して対岸の火事ではない。オスプレイはこれから東京などにも配備され、各地の空を飛ぶ予定だ。「私のまちには落ちるわけがない」「落ちてても大したことではない」。そんなバイアスからわが身を解放しなければならない(12.15朝日・天声人語から)

「正常性バイアス」から解放されるべきと筆者が揺さぶりをかけているのは、私たち読者、市民の意識ではないでしょうか?

「銀河通信」が3月に200号を迎えます。実行委員会で、「200号をお祝いする会」を企画して下さっています。案内チラシを同封しました。みなさまからのメッセージもお待ちしております。

オリオン座のベルトにあたる三ツ星の下に大星雲M42があります。星雲のガスの中で、星が作られているそうです。オリオン座が西の空に傾くころはもう春です。

(2016.11月撮影・解説 樋口澄生)



## 「慰安婦」問題の現在



2016年12月16日、植村裁判後、「女たちの戦争と平和資料館（wam）事務局長の渡辺美奈さんが講演しました。

### ■ 正論、櫻井よしこさんらが名指しでwam攻撃

先日wamに、爆破予告のハガキが届きました。文面は「爆破する 戦争展示物を撤去せよ朝日赤報隊」。警察への被害届と別に「言論を暴力に結びつけない社会」の実現を各メディアに呼びかけたところ、植村裁判を支える市民の会から心強い応援声明を受け取りました。

wamは、女性国際戦犯法廷（2000年）を提案・主導した松井やよりさんの遺言で05年に開設しました。この法廷で有罪とされた日本軍性奴隷制の責任者、天皇裕仁ら9人の写真パネルなどを常設展示しています。当初から様々な攻撃を受けてきましたが、ユネスコの世界記憶遺産に「日本軍『慰安婦』の声」の登録申請が5月末公表されてから、様相が変わって来ました。登録を推薦した日本側委員会の住所と代表はwamとダブります。産経新聞や月刊誌『正論』、週刊新潮などに櫻井よしこさんらが名指しでwam攻撃を書き続けています。ネットに「日本の中の敵はこいつらだ」という書き込みもあります。爆破予告は初めてでしたが、支える会の声明で、みんなが関心を持って見てくれていると感じました。ありがとうございます。

この運動に20数年かかわっていますが、植村隆さんの名前を聞いたのはバッシングが始まっていた数年前です。その後朝日新聞の慰安婦問題検証特集が出ましたが、中途半端で奥歯に物が挟まったような説明でした。けんかの仕方を知らず、ヤクザ相手に「話せば分かる」と出掛けてボコボコにされた、ナイーブなエリート集団という感じです。

一昨年1月、植村さんが東京地裁に提訴した日の報告集会で「これは報道の自由の問題だ」「民主主義の問題なんだ」と強調する発言が大変気になりました。勝つためには色々な闘い方があります。しかし「慰安婦」問題は、女性に対する重大な人権侵害であること、日韓の首脳が両国の安全保障についても話し合えない事態を生んでいるという問題意識を、感じられませんでした。

### ■ 70年代には「慰安婦」報道はあったが議論はなかった

韓国に住んでいる元朝鮮人従軍慰安婦の証言を初めて書いた、植村さんの朝日新聞記事（1991年8月11日付）は、韓国紙に転載されることもなく、運動に影響を与えることはなかった。3日後に金学順さん本人が名乗り出た記者会見は韓国で大きく報道されましたが、読売新聞も毎日新聞もほとんど書いていません。1970年代から新聞、テレビの報道、ルポ、書籍などで「慰安婦」として被害を受けた女性たち（渡辺さんはそれぞれのケースを説明）の具体的な存在が、顔や住所と一緒に紹介されてきました。ベストセラーになった本もあります。しかしちゃんとした議論がされず、問題性を理解されずに来たためこの記者会見が日本できちんと報道されなかったのだと思います。

韓国で自ら名乗り出た日本軍「慰安婦」は初めてだったし、自分たちが受けた被害の責任を追及して日本政府を東京地裁に訴えた（91年12月）のも金学順さんたちでした。被害者が名乗り出たことは様々な国で報道されました。新聞を読めない人には、ラジオが有効な名乗り出呼びかけの手段でした。しかし「何で今ごろ」「安心できる人がちゃんと聞いてくれるだろうか」「周囲に知られ、さげすまれないか」「話した後ほったらかしにされるのでは」等々、呼び掛けに反応できなかった人は少なくなかった。被害女性を支える運動がないところでは、名乗り出られないのです。でも、フィリピン、台湾、インドネシア人などの女性150余人が名乗り出ました。

「慰安婦」の総数は想像が付きません。日本兵300万人の侵攻地域で兵100人に1人の割合だったのか、200人に1人か、それとも30人に1人かで計算するしかなく「数は分かりません」と答えています。

### ■ 来年4月に「慰安婦」博物館会議を開催

「慰安婦」問題は90年代になって、戦時性暴力問題という国際的うねりに結びついていきました。旧ユーゴスラヴィアやルワンダの内戦は民族浄化という虐殺、おびただしい集団強姦を伴いました。しかし戦争によって女性に集中する性暴力の責任を女性が問うには、戦争が終わり、告発しても殺されない程度の平和が必要です。だからこれまで責任者は裁かれてきませんでした。

戦時性暴力が追及を受けずにいるのは、未来の戦争で起きても処罰されないということです。しかしアジアの女性たちは顔を見せ、堂々と50年前の被害を告発しました。内戦が続く旧ユーゴの被害者と日本軍「慰安婦」の出会いなどが国際的うねりとなり、人道に対する罪、戦争犯罪を犯した個人を訴追する

国際刑事裁判所の誕生（98年）となりました。

「慰安婦」などなかったことにしようとする風潮が広がっており、被害の実態とその歴史を伝える日本軍「慰安婦」博物館の役割は、極めて重要になってきました。韓国、日本、中国、フィリピン、今月開館した台湾と計8館があります。博物館同士で情報を共有し連帯した活動を起こしていく場として来年4月1日、第1回日本軍「慰安婦」博物館会議を東京で開きます。みなさんのご支援をどうぞよろしくお願い致します。

（まとめH・H）ブログ<http://sasaerukai.blogspot.jp/> もご覧ください。

## 私たちの声を議会へ～市民と議会の回路をつくる 三浦まりさん講演会



### 届かない私たちの声

昨年6月11日に札幌市内の教会で三浦まりさん（上智大学教授）による講演会が開かれ

ました。120人が参加。講演要旨です。

「安保法制」や原発規制も、世論調査では現政権の方向性への支持者は少ないが、次々と強硬な手段で法案を確立させている。「どうして、どうしたら」私たちの声を届けることが可能か。この疑問を考えてみましょう。

私は大学で政治学を教えています。学生から「選挙に行かない」や「何で声を挙げなきゃならないか」との声があります。

投票率も低く、政治は遠くに生活と切り離されたものとの意識が浸透し、民主主義を脆弱なものにしています。

憲法には、「国会議員は国民の代表であり、その付託を受け、国民全体の利益を考えて最善と思う決断を自由に行う裁量がある」と書かれています。この裁量幅が大切であり、2009年の民主党がマニフェストを実行できず負けたのも極端で、時には途中の大震災や経済情勢による柔軟な解決が必要です。重要なのは私たちと代表者が密なコミュニケーションで、個々人の利害や価値観に折り合う仕事をするかで、このための回路が今足りていない。選挙区の国会議員や地方議員との少ないコミュニケーションの中で、声を届ける仕組みを実際に作っていければ、主権者である私たちが決めた争点について、議員と話し合う機会は多くなると思います。

### 進まない女性の政治参加

本日は女性の参加者が多いですが女性にとって「政治がすごく遠い」と感じる理由の一つは、「議員が殆ど男性」ということだと思います。

「保育園少ない」「出産、子育て、介護」など、政治での解決を望む時に誰に話をしやすいか。男性議員だと保育経験のない場合が多くうまく通じ合わないだろう。男性と女性、高齢者、障がい者と様々なタイプの議員による多様な議会では、自分

の抱えている多様な問題を受け止めてもらえる。今はあまりに足りていません。

2006年から「ジェンダーギャップ指数(男女の格差)」の順位が少しずつ落ちていきます。去年は145カ国中101位と低い。日本の特色は、高等教育(大学・大学院)の進学率が、女性は低い。先進国は女性の方が高い。たぶん高額な教育費のためだろう。

目立つのは経済力で「男女の賃金格差」が非常に大きい。女性の半分以上は非正規雇用で正規との賃金格差が大きい。女性議員比率が低い政治が影響しているのだろう。衆議院で9.5%と10人に1人いない。参議院でも約16%で世界平均の22%に比べ、半分ほどです。

順位は191カ国中157位で下から37、38番目で、偏差値41ほどで著しく低い。経済発展と女性議員比率は無関係で、途上国で90年代以後に民主化した国は、男女平等のため憲法に議席の何割は女性に割り当てると明記してある。先進国の中で日本は最下位であり、1月にミャンマーのアウンサンスーチーさんが事実上の大統領となり女性が倍増し、抜かれ一つランクが下がった。その後4月にサモアに抜かれたので、いずれ行われる衆議院議員選挙では必死になって増やさないとどんどん落ちていく状況です。

### 女性たちの政治参画の新しい動き

「どうも政府は情報を隠しているようだ。自分で情報を集め判断しないと自分も子どもも守れないのでは」と思う女性たちによって「怒れる女子会」が能動的に動いています。ネットの力もあり、相互にゆるい繋がりながら、瞬く間に全国各地で4,000近くが出来ている。だが、「女性」が声を挙げると「何で女性が」と厳しい声が返ってきます。

「ママの会」や「母親の会」だと、子どもを守るという立場で活動の場も広がります。

「女性議員を増やさなきゃ」と言っても「女性議員なら誰でも」ではなく、「女性の声を受け止めてくれる女性」でなければなりません。これがなぜ盛り上がらないかは、2000年以後の女性議員の増え方に問題があります。

### 「男女同数」に向けて

世界的に20年間で2倍の女性議員が増えた最大の理由はクオータを行ったため、今120カ国でクオータを行っています。

2015年8月、議連にどうせ理念法ならば、3割でなく一気に「男女同数」と提案し、自民党から「同数」でなく「均衡」と異論が出ました。

日本の労働運動では、「均衡」は平等ではなく、「少し差別的な低い扱いが当然」という言葉で使われている。民進党ほか4党は同数を

目指す法案を出しました。自民党が「同数」じゃなく何を出すのか是非注目してほしい。

女性を増やすための国会審議は、あまり報道されていませんが、実はじわじわと永田町では動いています。これをさらに広げていくため、永田町へクオータ法の陳情というロビー活動だけではなく、地元選出の国会議員にFAXを送るとか、逆に声を挙げる人が少ない社会なので、挙げた者勝ちのところがあります。皆さんも次の選挙まで、FAXにびっしりと書き込んで送る。そういったことを自身が行うことによって、回路が作られ風通しの良い民主主義になります。

(私も講演を聴きましたが、細部は鈴木澄江さんのまとめを参考にしました)



1月某日、寒い寒さの朝、氷点下二十四度の厳がみられました。自宅近くで霧水

## 泊に活断層の可能性

昨年11月10日に「泊原発敷地内の「活断層」問題と原子力規制委員会の審査の問題点」をテーマに泊原発の廃炉をめざす会共同代表の小野有五さん(写真)が講演しました。要旨を紹介します。



### 審査停滞も再稼働へ

原子力規制委員会は2年半かけて、泊原発の地盤、津波、火山などの地質関連の審査会合をおこなってきました。最初は月に4~6回開催していたのですが、2014年にそれまで委員長だった島崎邦彦氏が退任し、審査は停滞します。今ではなし崩し的に再稼働を承認する委員会になっています。2015年12月には北電の言い分を「おおむね了承」してしまいました。それで北電は、これでもう再稼働できると判断し、2016年早々から地元での説明会を始めたのはご存じのとおりです。この動きに危機感を持ち、私たち「行動する市民科学者の会・北海道」は、2016年3月22日に、北電の主張の科学的な誤りを指摘し、これまでの審査の見直しを規制委員会に申し入れました。

### 活断層の存在を無視

泊原発は、海拔60mほどの海成段丘を海面近くまで削ってつくられています。敷地の基盤は数千万年前の神恵内層ですが、北電はその上に120万年前に堆積した岩内層があり、岩内層の下部もF-1断層ですれているとしています。しかし岩内層の年代の根拠となる資料はこれまで一度も報告されていません。福島事故直後の別な検討会

にちょっと出されただけなのですが、これが科学的には完全にまちがっているのです。岩内層は、岩内の市街の背後に広がる海成段丘をつくっていますが、多くの科学者が、この段丘は12.5万年前のものとしています。敷地内の段丘は、岩内の段丘よりさらに高くその年代は33万年前になりますので、その段丘をつくる敷地内の「岩内層」は33万年前岩内台地の「岩内層」は12.5万年前、というように、それぞれ全くちがった地層なのです。北電はそれらをごっちゃにしたうえに、まったく誤った古い年代にしていたわけでそれにもとづく北電のこれまでの主張は、根本的な見直しが必要です。たとえば泊原発が立地する積丹半島は、「広域的隆起」で形成されたので安定していると主張されてきましたが、「広域的隆起」とは、ヨーロッパや北米大陸で見られるように数千kmの広さで地盤がゆっくり上昇する現象です。わずかな距離で同じ時期にできた段丘面の高さが大きくちがってしまう日本海側や積丹半島のような地形の形成は「地震性隆起」以外あり得ません。先日の審査会では、泊原発の防波堤と防潮堤が、想定する最大の地震の揺れや津波の高さでは破壊され、また防潮堤も液状化で沈み込む恐れがあると指摘され、北電もそれを認めため、来年の再稼働の見通しは立たなくなりましたが、これまでの主張がすべてひっくりかえる「岩内層」の問題は、審査を最初からやり直さなければならぬくらい深刻な問題なのです。

避難計画も杜撰なものです。福島事故処理や、廃炉費用、核のゴミ処理の費用を含めると原発のコストは非常に高くなることも明らかになりました。核のゴミを地下に埋めて10万年管理する政府の方針も非現実的です。どの問題をとっても泊原発の再稼働はすべきではありませんし、今のまま廃炉にすべきだと思います。

## いっしょに考えるハンセン病のこと

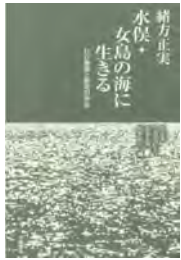
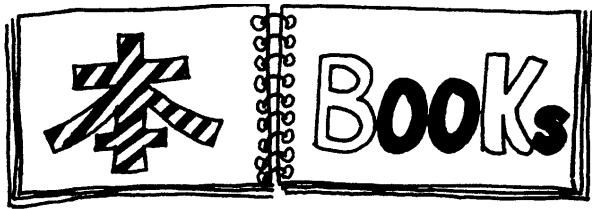
1月14日にハンセン病を共に考えるフォーラムがあり、高校生や市民120人が参加しました。



旭丘高校の新聞部の生徒らと、国際情報高校の放送部の生徒らが、多摩全生園を訪ね、ハンセン病で隔離されて人権侵害や差別を受けた人たちの苦しみや悔しさを初めて目の当たりにして、正しい知識を学ぶことが大切だと語りました。

全療協事務局長の藤崎陸安さんは、秋田から8歳で、母と岡山の長島愛生園に入所し、差別と偏見に苦しめられた半生に、普通に生きる自由を奪われた悔しさが胸に迫りました。

私も会員である「ハンセン病回復者と北海道をむすぶ会」が共催。同会からは井上昌和さんが、「ハンセン病を知って」と発言しました。



水俣・女島の海に生きる  
わが闘争と認定の半生

緒方正実著 世織書房  
2700円＋税

現在、緒方さんは建具屋の仕事  
をしながら水俣市立水俣病資料館

の「語り部の会」会長をされて、水俣病を語り  
伝えています。現在58歳。女島の漁師の家に生  
まれ、水俣病の苦しみとともに育ち、患者認定  
を受けるまでの半生を記録した本です。

水俣病を認めたくなかった緒方さんですが、  
38歳の時に公害健康被害補償法に基づく認定  
申請をします。しかし、「非該当」とされ4度  
も棄却されました。「なぜ行政は水俣病の被害  
をきちんと受け止めないのか」と憤りを感じた  
緒方さんは、行政に何度棄却されても、率直に  
かつ平明に、訴え続けました。緒方さんが、行  
政に求めたのは、組織人としてではなく人間と  
してのことはを求め続けたのです。

意を尽くして、「緒方さん、悪かった」と謝  
罪させるまでの長い道のりでした。

緒方さんは、とことん水俣病に向き合いま  
した。その言葉が深く、哲学者のようでした。  
2007年、ようやく認定を勝ち取ったのです。  
11年の歳月がたっていました。行政との闘いは  
実は自分自身が自分の水俣病を認める闘いだ  
ったと、後で気づいたと書いています。そこがす  
ごいと思いました。たいていの人は、「どうし  
たら認定されるか？」と方法論に逃げてしま  
うのではないのでしょうか？

認定患者の職業を「ブラブラ」と記入した認  
定審査書類を作成していた問題も鋭く緒方さん  
は追求しました。

緒方さんの魂の語りにも心揺さぶられました。

緒方さんは家族についても語っています。緒  
方さんが1歳の時、祖父、福松さんが劇症型水  
俣病で死去。認定申請の準備中だった父親は3  
8歳で心不全で亡くなり、妹のひとみさんは生  
まれながらに障害がありました。後に胎児性水  
俣病とわかります。家族、親族を合わせ水俣病  
の認定患者が20人もいるそうです。緒方さん  
自身も竹で太ももを突き刺しても痛みを感じ  
ない。口の周りのはしびれ、耳鳴り、頭痛に悩  
まされてきました。水俣病には人それぞれに症  
状が違っても知りました。

緒方さんのメッセージです。苦しいでき事や  
悲しいでき事の中には幸せにつながっている  
でき事がたくさん含まれている。このことに気  
づくか気づかないかで、その人生は大きく変  
わっていく。気づくにはひとつだけ条件があ  
る。それはでき事と正面から向かい合うこと  
である。-5-

緒方さんのメッセージの意味を初めて理解  
できました。

9月に水俣で初めてお目にかかった時の穏  
やかさは壮絶な闘いの末に得た境地だったの  
ですね。

巻末の年表・水俣病事件史と緒方正実個人  
史も含めて、水俣病を本人が語った貴重な証  
言です。



あるハンセン病キリスト  
者の生涯と祈り

北島青葉『神の国をめざして』が  
語る世界

小林慧子著 同生社  
1900円＋税

後藤誠二さんが叔父、熊谷久一さん（ペン  
ネーム・北島青葉）の存在を知ったのは、祖  
父が石狩に開拓団の一員として入植した歴史  
を調べていた時でした。戸籍謄本に初めて見  
る名前を見つけます。叔父は青森に分家し、  
除籍になっていました。青森の住所をたど  
るとハンセン病の人たちが暮らす松丘保養所  
であることが分かります。後藤さんは姉（著  
者の友人）と松丘保養所を訪ね、久一さん  
を良く知る滝田十和男さんから、当時の様  
子を聞くことができました。同人誌「甲田の  
裾」に短歌や、短編小説などをいくつもの  
ペンネームで投稿していたことを知ります。  
療養所で孤独と絶望に苦しみながら、さ  
さやかな喜び悲しみを共感しあう機関誌  
が「甲田の裾」でした。

著者は保健福祉の仕事をしていた頃  
から、松丘療養所をよく知っていました。後  
藤さんの姉の友人でもあったことで、久一  
さんの文学作品が陽の目をみるに至り、一  
冊の本にまとめたのが本書です。

北海道京極町に生を受けた久一さんは、  
札幌富貴堂で働きながら夜学に通い、道庁  
職員になります。しかし22歳でハンセン  
病になり、その後75歳で亡くなるまでを  
ハンセン病療養所のなかで過ごしました。

羅病後まもなくキリスト教に入信した久  
一さんは命を賭けて信仰を追い求め、た  
くさんの文章を残しました。

ペンネーム北島青葉で書いたのが「神の  
国をめざして」でした。ハンセン病である  
ために人生を閉ざされた者が、イエスの  
十字架の福音に出会い、その救いの原理  
を読み解くことで、一個の人間として己  
の場を取り戻していく物語です。

私が一番好きな文章は保養院で、児童  
の教育に携わる場面でした。「甲田の裾」  
で久一さんは「子ども達にスキーが欲  
しい、スキー遊びの実現を」と投稿しま  
す。1933年のことです。そして実現し  
たスキー講習には、大人、子どもあわ  
せて20人が一緒に滑った姿を生き  
生きと活写しています。「病気も病者  
という考えもない、ただ大きい大きい自然

中に我も人もなく溶けこんでゆく」と記しました。

私は10数年前に、松丘保養所を訪ね、何人かの方から、差別と偏見に苦しめられた人生をお聴きしました。本書でスキー講習に嬉々として参加する子どもたちの姿を、ある女性に重ねて読みました。「子どもの頃にここに連れてこられたの」とポツンとつぶやいた美しい女性でした。いつかその女性の半生を聴きたいという思いで「ハンセン病回復者と北海道をむすぶ会」に発足時から参加しています。後藤さんも会員です。

私はクリスチャンではありませんが、いくつかの教会での葬儀に参列して、讚美歌の温かさに涙があふれました。「また会う日まで、また会う日まで、神のまもり 汝が身を離れざれ」と繰り返されます。送別の歌なのに、なぜか希望を感じて、表現は適切ではないですが明るいのです。キリスト教に惹かれました。

久ーさんの聖書を深く探求したひたむきさに感銘を受けました。

## 写真で伝える世界の今一紛争の爪痕から逃れて



2016年12月8日は太平洋戦争開始75年の日でした。札幌市内でフォトジャーナリスト安田菜津紀さんの講演「写真で伝える世界の今 紛争の爪痕から逃れて」を聞きました。講演要旨です。

私がフォトジャーナリストになったきっかけはカンボジアで貧困にさらされる子どもたち取材したことでした。

東日本大震災と同じ2011年3月に、内戦が始まって5年のシリアを訪れました。それまでは平和で美しい国でした。住む人々の人柄も素晴らしい。難民になった人々は隣のヨルダンで生活しています。難民キャンプで出会った子どもたち取材してきました。難民キャンプの環境はとても悪く、飲み水さえも十分ではない。大人も子どもも国連のハムの配給に並ぶが、働き手の父を亡くした少年は、学校に行かずに家計を助けるためにそのハムを売って生活費にしています。5歳の男の子は、空爆で大怪我をして病院に入院。父とは離れ離れです。安田さんはその子と親しくなって、元気になるのを楽しみにしていました。ところが日本に帰国後、一週間で亡くなりました。「写真で人は救えない」と落ちこみました。家族を空爆で奪われたある男性は「なぜ家族全員を吹き飛ばしてくれなかったのかな」と嘆きました。

私たちがやれる事は声を上げ続けること。戦争は日常を奪う。シリアの人々は、家族や親戚など亡くしている。私たちには支え合うという役割があるのではないか。ジャーナリストとして伝え方を考えて、世界各地で起きている紛争で、どんな問題があるのかを伝えていきたいと

結びました。

懸命に生きている子どもたちの姿を写真とお話で紹介し、安田さんの子どもに向けるまなざしがとても温かく涙がこぼれました。



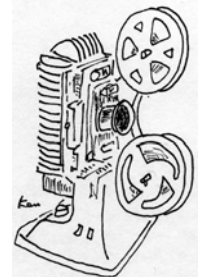
安田菜津紀さんの著書「君とまた、あの場所へ シリア難民の明日」新潮社がお勧めです。

残酷な映像ばかりが目立つ中、その陰に隠れて見過ごされている難民たちの姿に目を向け、彼

らの「置き去りにされた悲しみ」に寄り添い小さな声に耳を澄ましなが、明日への希望を託して写真と文章で伝えています。

弁護士 ヤン・ウソク監督

映画



弁護士時代のノ・ムヒョン元大統領がモデルになった実話です。韓国では1100万人が観た大ヒット作です。

1980年台初頭、軍事政権下の韓国で高卒で苦学して弁護士になったソン・ウソク(ソン・ガンホ)は不動産登記手続きで大儲けします。

苦学していた頃に世話になった食堂の息子ジヌが国家保安法違反容疑で逮捕されたことを知り、拘留所へ面会に行ったウソクはジムの体中に残る無数の拷問の痕を目にした時、「公安事件」を引き受ける決意をします。人権派弁護士に転身する瞬間でした。ウソクが調査を開始すると、国家組織は妨害したり、自身も暴力を振るわれたりします。しかし屈することなく国家を相手に孤軍奮闘します。

何度も拷問のシーンがあります。私は日本で治安維持法が生きていた頃の拷問が、現代もあることにショックを受けました。思わず目を背けてしまうほど。開廷の時、縄でつながれた学生らの人間的な扱いを要求します。

ジムらは、読書会で禁書を読み共産主義に染まって、反政府的な計画をしていたと警察から拷問を受けるのですが、ウソクは本を読み込み、まったくの冤罪だと主張します。また拷問だったとする証言者も陳述するのですが・・・ウソクが軍事政権と命がけで闘い抜きます。ソン・ガンホの気迫の演技が圧巻です。

6年後を描くラストシーンに胸揺さぶられ、涙がどっとあふれました。今、韓国の人びとの朴大統領に対する怒りが激化しているのと重なり、1980年代の民主化運動が今に生きているのを実感し、感動しました。

## ここに剣士を クラウス・ハロ監督



物語は、戦時中ドイツ軍に徴兵されたことで、ソ連の秘密警察に追われる身となっていたエンデルが、鞆一つで、エストニアの小さな町ハ

ープサルに降り立ち、地元の小学校へ向かうところから始まります。身を隠すために田舎町の小学校に体育教師として志願したのでした。そんな彼をなんで都会からこんな田舎町へと不審を抱きながらも、校長は採用するのでした。

1950年代初頭のハープサルでは、ソ連の圧政によって多くの子どもたちが親を奪われていたのです。元フェンシング選手と子どもたちが逆境に立ち向かう姿を描いています。実話です。

エンデルのフェンシングを見つめていた少女マルタから「教えて」と言われてクラブを開くと集まった子供たちの多さに驚きます。校長はクラブ廃部を決めますが、集まった保護者の全員がエンデルを支持するのです。身元を隠して苦手な子どもの指導をしながら何かを感じ始めるエンデル。父親を圧政で奪われてしまった子どもたちが、エンデルのフェンシング指導を通じて、心と父性に触れます。そんな暗い歴史の中の市民たちの物語として一気に深みを増していきました。

レニングラードの全国大会にエンデルは教え子たちと同行することを決意します。同僚教師の恋人、カドリは「逃げて」と懇願しますが、「もう逃げる人生は嫌なんだ」と言います。ドイツ占領とソ連併合という複雑な政治下で、子どもの純粋な気持ちに触れて勇気を得るエンデルに共感しました。

今まで、フェンシングと同じように、人との関係も距離を測ってきたエンデルが、子どもに教えることで変わっていきました。試合は小さな学校の子供たちの大きな挑戦でした。道具も満足にない中で、闘い抜くのです。マルタら剣士は輝いていました。逃げる人生ではなく堂々と生きて誇りをとり戻すエンデルに胸打たれました。静かに流れる音楽も素晴らしかったです。今も、その学校にはフェンシング部があるそうです。

## アイヒマンを追え！

ナチスがもっとも畏れた男

ラース・クラウメ監督

自国の負の歴史と向き合ってきたドイツですがそこに至るまでには良識ある人々の闘いがありました。そのきっかけになったのが、パウアー検事長の不屈の闘いでした。

舞台は1950年代後半の西ドイツ。敗戦から経済復興に傾斜し、戦争の記憶を風化しようとする動きがありました。祖国の未来のために正義と信念を貫き、ナチスの戦争犯罪の追求に人生を捧げたのがユダヤ人の検事長フリッツ・パウアーでした。戦犯の追及に奔走。アイヒマンの所在を突



き止め、追い詰めていったかが描かれています。

政府の要人たちは元ナチスの残党たちがほとんど、法の世界も同じでした。そのような状況の中、パウアーは歴史上極めて重要な人物、逃亡中のナチス戦犯アドルフ・アイヒマンを見つけ出し、ついにエルサレムでアイヒマン裁判が行われることになるのですが、なぜドイツではなくエルサレムなのか、初めて明かされるその事の次第が克明に、スリリングに展開していきます。

「執務室を一步出れば敵だらけ」戦時中のナチスの時代のことを忘れたと思う人達にとってパウアーは、なんとしても失脚させたい人物であり、それに対して彼は命をかけて立ち向かったのです。国家反逆罪を犯してまで、パウアーは戦争の真実に目をつぶることは、国の信義も、尊厳も失うことだという信念を貫きます。ここでは裁判は描かれませんが、アイヒマン裁判やアウシュヴィッツ裁判などを契機に、ドイツは負の歴史と向き合うことになったことを知り、たった一人であっても、闘い抜いたパウアーに畏敬の念でいっぱいになりました。

膨大な資料や証言を元に史実に忠実に作られた映画です。ナチスの犯罪と向き合い、ドイツの映画として描くことの重さが、深く心に刻まれました。昨年1月に観た「顔のないヒトラーたち」はこの映画の後日談に当たります。(193号に紹介)



## みかんの丘

ザザ・ウルシャゼ  
監督

ジョージア(グルジア)のアブハ

ジア自治共和国でみかん栽培をするエストニア人の集落。ジョージアとアブハシア間に紛争が勃発し、多くの人は帰国したが、イヴォとマルガスは残っています。みかんの木箱作りをしているイヴォは戦火で怪我をした兵士二人を自宅で介抱します。ひとはアブハシアを支援するチェチェン兵アハメド、もうひとはジョージア兵ニカで敵同士でした。彼らは互いに同じ家に敵兵がいることを知って殺意に燃えますがイヴォが家の中では戦わせないという、兵士たちは約束します。

19世紀後半のロシア帝政時代に多くのエストニア人がアブハシアに移住し、開墾。集落を築いた歴史があります。みかんはアブハシアの名産だそうです。

この「みかんの丘」には、人間の精神、尊厳にとってとても強い人間的なメッセージが込められています。

敵対する二人の兵士がイヴォの恩義をきっかけに人間性を取り戻していきます。二人の兵士の間に友情が芽生えていく描写はユーモアさえあり秀逸でした。

パチャママの贈りもの 松下俊文 監督・脚本



昨年12月23日、大雪で交通事情が悪かったのにさっぽろ市民シネマの上映会「パチャママの贈りもの」にはたくさんの市民がいらしていました。

南米ボリビアのアンデス高地・ウユニ塩湖を舞台に描く、雄大な自然と先住民の家族の素朴で優しい生活の物語です。(2009年の作品)

パチャママとはアンデス先住民の言葉で「母なる大地」のことです。少年コンドリは父と一緒に、ウユニ塩湖から切り出した塩をリヤマに乗せて3ヶ月の旅に出ます。広大な塩湖や、アンデスの高地の自然が美しい。塩は売るのではなく、ジャガイモやトウモロコシと交換するのです。貧しいけれど、助けあって生きているボリビアの先住民、ケチュアの人びとは、みんなとてもいい顔をしているのが素敵でした。

2006年にボリビア初の先住民出身のエボ・モラレスが大統領になり、先住民社会の世界観に根ざした共生の概念を大切にする政策が打ち出されていることも、素晴らしいですね。

人間も動物も大自然の中で、たくましく生きていく姿に、本当の豊かさってなんだろう?と問いかけていました。ルミスラ・カルピオの歌声はアンデスの風土によく似合っていました。まるでドキュメンタリーのような映画。アンデスの風を感じました。

監督はニューヨーク在住が40年近い松下俊文さんです。6年がかりの作品です。

幸せな気持ちで会場を後にしたのですが、JRは大雪の影響で不通。道路も除雪が追いつかず大混乱。3時間かかってようやく自宅にたどり着きました。パチャママに守ってもらえませんでした。

みな子を選んだ2016年映画ベスト10

日本映画

- 1、この世界の片隅に 2、FAKE
- 3、湯を沸かすほどの熱い愛 4、エヴェレスト 神々の山嶺
- 5、不思議のクニの憲法 6、オーバー・フェンス 7、永い言い訳 8、君の名は
- 9、怒り 10、シン・ゴジラ

外国映画

- 1、弁護人 2、ニュースの真相 3、トランボ ハリウッドに最も嫌われた男
- 4、サウルの息子 5、ハドソン川の奇跡
- 6、スポットライト 世紀のスcoop
- 7、顔のないヒトラーたち 8、ブルックリン
- 9、キャロル 10、奇跡の教室 受け継ぐ者たちへ

早春賦

早春賦の一節「春は名のみの風の強さや」を頬に感じながら、自宅近くや近郊の雪原を歩いて小さな自然を楽しんでいます。

人も動物も野鳥も地球の仲間。懸命に生きてい



る姿に触れて 元気づけられました。写真(上)は姿見えねど、広大な大地を駆け回っている野うさぎの足跡です。遙か遠くにはキツネも遊んでいました。

(1.9 長沼町で)

自宅近くで何十羽というスズメが気持ち良さそうにさえずっています。(左写真



馬追丘陵で足慣らし(1.8 瀬台で)



元旦に日高の富川に初日の出を見にいきましたが曇りで残念でした。でも懐かしい沙流川右岸から見る日高の山並(写真上)がきれいでした。



写真 近くの森のヤマガラ

銀河通信200号祝う実行委員会からのお知らせ

日時: 4月15日(土) 15:00~17:30

会場: 北光教会2F ガリラヤホール (札幌市中央区大通西1丁目)

会費: 4000円

200号の足跡をパワーポイントで紹介。崔善愛(チェソニエ)さんのピアノなど予定しています。是非ご参加ください。

詳細は同封の案内チラシを参照してください。

購読料とカンパをありがとうございます

(敬称略) 2016.12.2~2017.1.5

助田梨枝子(芽室町) 瀬尾英幸(泊村) 赤坂京子(札幌市) 匿名(札幌市) 伊藤恒雄・牧子(江別市) 新妻徹(札幌市) 佐々木純一(雨竜町) 藤野知明(札幌市) 高島拓生(嘉麻市) 伊藤康弘(札幌市) 杉本富明(熊谷市) 吉岡しげ美(練馬区) 合計2.6000円 緒方正実(水俣市) 著書 後藤誠二(石狩市) 著書 塩川哲男(札幌市) 切手 購読料とカンパは印刷費と送料に使わせていただきます。著書や切手も合わせてありがとうございます